
4年研究授業計画

東二番丁小学校 4学年担任 早坂 美幸

1 研究教科 国語科

2 国語科で目指す児童像

意欲を持って言語活動に取り組みながら、自分の思いや考えを適切に表現し、友達の考えを理解する中で互いに深め合うことができる。

3 児童の実態

発問に対して自分の考えを持ち、意欲的に発表することができる児童が多い。一方で、考えはあっても発表までつながらなかったり、考えを持つまでに時間がかかったりする児童もいる。そのため、考えを深めさせたい場面では、ノートに自分の考えを書かせる活動を取り入れる必要がある。物語文では、文章から登場人物の気持を読み取ることができる児童が多いが個人差がある。また、書くことに関して、表現や構成を工夫して書くことができる児童もいるが、出来事を書き連ねてしまう児童もあり、個人差は大きい。

4 『小学校学習指導要領』における言語活動の位置づけ

本研究は『小学校指導要領』国語科第3学年及び4学年の内容「C 読むこと」(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりすること。」(2)エ「紹介したい本を取り上げて説明する言語活動。」に基づいて行う。

5 授業研究計画

- (1) 段落同士の結びつきを考えて読み、文章の構成をとらえさせるなかで、筆者の意図した構成について考えを交流し合う授業。
- (2) 調べたことを引用や要約を使い、自分の考えを交えて文章にまとめる。それを交流しあい、更に考えを深めていく授業。

6 授業技術課題

- ・ 板書を構造化して行うことで、1時間の授業の流れを視覚的に押さえさせることができるようにする。
- ・ 机間指導で児童の意見を見取り、意図的指名に生かせるようにする。

◎ 教科の目標と研究内容との関連

(1) 指導要領より

①教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

②4学年の目標（第3学年及び第4学年）

第3学年及び第4学年の目標は，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことの3つの領域と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項から構成されている。

○A話すこと・聞くこと

相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話す能力，話の中心に気をつけて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

○B書くこと

相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに，工夫しながら書こうとする態度を育てる。

○C読むこと

目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

第4学年では，相手や目的を意識しながら，言語活動を通して理解力，表現力，思考力を高めていくことが求められる。今年度は説明文教材を用いて，目的に合わせて段落相互の関係を読み取ったり要約したりなどの活動を行いながら，より良く伝え合うための工夫を身に付けさせていきたい。

(2) 今年度指導するポイント

①目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読み，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考え全体構成を把握し，自分の考えをまとめたりしながら読むことができるようにさせる。

②自分の考えをまとめるために，文章の要点に注意しながら読み，引用や要約ができるようにさせる。

③自分の考えの理由や根拠を，事例などを挙げながら筋道立てて明確に話せるようにさせ，また，聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したり，自分の感想や意見を述べたりすることができるようにさせる。